将来を見すえたまちになりました
～事業に参加した方へのインタビュー～

三原台二丁目土地区画整理事業は平成元年から9年間に渡り準備の話し合いが行われ、その後5年間で区画整理事業が施行されました。事業は土地を所有している方々によって行われ、それをサポートしたのが練馬区都市整備公社です。事業に参加した中井川薫さんと朝比奈裕利さんに公社の区画整理担当がお話を伺いました。

相続が心配

――事業を開始する以前から、ご自分の、またはご両親の土地について課題を抱えていたそうですね。

朝比奈 ええ。主に祖父の相続の時に選択した農地の維持の問題と、土地の有効利用についてですね。

――確か相続税は農地として相続した場合、納付を猶予される代わりに営農を続けなければならず、個人開発や道路をつくるなど土地利用もできませんよね。

朝比奈 そうですね。農地を維持していくのは本当に大変ですし、両親の高齢化も心配でした。また、バブル景気のあと土地価格の下落もあり、このままでは次の相続時に（税金が払えず）破産してしまうこともあると思いました。

ご両親がここで農業をしている朝比奈裕利さん

――土地利用についてはどのような事が課題でしたか。

朝比奈 宅地裏に道路に面していない遊休山林地があり、この土地の扱いについても苦慮していました。

中井川 私は父の生前から事業の話を聞いていましたが、畑のままならこれでいいとしても将来、宅地にすることを考えると不安はありました。

――それぞれ問題や懸念があるところに区と公社が加わって区画整理の検討をはじめたわけですが、難しいことはありませんでしたか。

朝比奈 私は、建築関係の仕事をしており、区画整理に携わったこともあったので、事業の用語については理解できましたが、他の方は用語の理解だけでも大変だったでしょうね。

中井川 皆さんの土地の条件などもバラバラですし、内容も難しかったと思います。

――それでも、参加しようと思ったのはどうしてですか。

中井川 父が生前に考えてはじめたことですが、事業に参加することに抵抗はありませんでした。

朝比奈 個人開発よりもメリットが多いと感じましたし、区画整理自体を知ってたことも大きいですね。

――地区外の方との境界線を決める交渉をするだけで、1年近く時間を費やしたこともありましたね。最終的には少しずつ土地を出し合って解決していただきましたが、最初の話し合いから9年近くかかってしまいましたね。

朝比奈 家族の中では、この時期には今後の見通しについて随分話し合いました。また、利害関係者との折衝にあたった公社の方の苦労も感じました。

ここで農業を営んでいる理事長の中井川薫さん

――土地区画整理事業は平成元年から9年間で区画整理事業が施行されました。事業は土地を所有している方々によって行われ、それをサポートしたのが練馬区都市整備公社です。事業に参加した中井川薫さんと朝比奈裕利さんに公社の区画整理担当がお話を伺いました。

朝比奈 そうですね。宅地裏に道路に面していない遊休山林地があり、この土地の扱いについても苦慮していました。

中井川 父が生前から事業の話を聞いていましたが、畑のままならこれでいいとしても将来、宅地にすることを考えると不安はありました。

――それぞれ問題や懸念があるところに区と公社が加わって区画整理の検討をはじめたわけですが、難しいことはありませんでしたか。

朝比奈 私は、建築関係の仕事をしており、区画整理に携わったこともあったので、事業の用語については理解できましたが、他の方は用語の理解だけでも大変だったでしょうね。

中井川 皆さんの土地の条件などもバラバラですし、内容も難しかったと思います。

――それでも、参加しようと思ったのはどうしてですか。

中井川 父が生前に考えてはじめたことですが、事業に参加することに抵抗はありませんでした。

朝比奈 個人開発よりもメリットが多いと感じましたし、区画整理自体を知ってたことも大きいですね。

――地区外の方との境界線を決める交渉をするだけで、1年近く時間を費やしたこともありましたね。最終的には少しずつ土地を出し合って解決していただきましたが、最初の話し合いから9年近くかかってしまいましたね。

朝比奈 家族の中では、この時期には今後の見通しについて随分話し合いました。また、利害関係者との折衝にあたった公社の方の苦労も感じました。

問題が山積

――その後、準備会では様々な問題が出てきて、条件が合わず、脱退するメンバーもいましたね。

＊準備会…事業を行うための測量や事業認可をもらうための作業をしていく組織

朝比奈 個人的には、参加者の脱退が一番こたえたかも知れません。（面積が減り、区域取りが変更することから）計画がつぶれるのではないかと思いました。それに隣地との問題もありましたね。

――地区外の方との境界線を決める交渉をするだけで、1年近く時間を費やしたこともありましたね。最終的には少しずつ土地を出し合って解決していただきましたが、最初の話し合いから9年近くかかってしまいましたね。

朝比奈 家族の中では、この時期には今後の見通しについて随分話し合いました。また、利害関係者との折衝にあたった公社の方の苦労も感じました。

――同意がある度に協議して解決していきましたね。事業発足後の運営についてはどうですか。

朝比奈 事業運営に関しては、とても「小さな運営」ができて良かったと思います。つまり、公社が事務局を担当したことで、現地事務所を設けずに経費を削減できました。このことは今後のモデルケースになるのではないでしょうか。

熱意と根気が大切

――完成してみて、いかがですか。

中井川 事業によって土地の面積は減りましたが、生産緑地と宅地を整備できたことは良かったと思います。野菜の収穫高は土地の面積だけではなく、作物の種類などによっても変わるので、デメリットはそんなに感じていません。

朝比奈 事業を行うには、自分達の土地やまちをよりよいものにしていきたいという熱意と長い年月を過ごす根気も必要だと感じました。

――最後にまちづくりについて何かご意見はありますか。

朝比奈 10年から20年先をみるという意識が必要だと思います。個人的には、「夏の夕方に散歩したくなるようなまち」が理想ですね。

中井川 最近は、犬を連れて散歩する方をよく見かけますね。幹線道路沿いには歩道もできましたし、周辺の方々にも貢献できて、本当によかったと思っています。

新しくできた6m道路

カラー舗装の歩道もでき安心

きれいに区画された農地で農作業をする様子

新しい道路沿いに建てられた住宅

記念碑の碑文には麦畑を舞うトンボの姿が描かれている

事業の完成を記念して建てられた記念碑

前後 中井川さん宅周辺の様子

前後 畑だけのところも大きく変わった

直売所では取れたての野菜を販売している

畑で作った農作物がならんでいる

板橋区と境をなす営団赤塚駅は、江戸時代に旧川越街道沿いに栄えた下練馬宿にも近く、今でも駅の周辺には宿場町のなごりを残す落ち着いたスポットが点在しています。

▲板出口付近の庚申塚

田柄用水と天祖神社

駅の南口から赤塚駅前商店街を抜けて住宅街を南へ。しばらく歩き、最初に訪れたのが**天祖神社**❶です。昔、この辺り一帯は干ばつに悩まされ、荒れた田んぼが多かったといいます。困り果てた村人たちは、近隣の村々と話し合い玉川上水から水を引くことを決めました。明治の初めに資金を出し合って水路を掘り始め、苦心の末、ついに田柄用水を完成させます。

天祖神社の境内には、その時の記念碑があります。「水神宮」と書かれた石碑の裏面には「羽村より　めぐりてきたる　田無口　石川ながれ　田柄水神」と刻まれ、潤った水田に歓喜した村人たちの喜びをうかがい知ることができます。先人たちの苦労の歴史があったこの辺りも今は住宅地になり、田柄用水も暗渠化されて緑道として親しまれています。

▶田柄用水の歴史を伝える記念碑

▲天祖神社(田柄４－27)

また、天祖神社のすぐ東には江戸時代初期の創建といわれ、火防と農神の神を祀る**愛宕神社**❷もあります。境内には練馬の名木に指定されているシラカシやヒイラギもあり、鎮守の杜と呼ぶにふさわしい雰囲気が漂っています。7月の例大祭に開かれる金魚市は夏の風物詩として知られ、近隣の人々で賑わいます。

▲愛宕神社(田柄２－17)

ねりまの無形文化財 田柄囃子

神社の祭りにかかせないのはお囃子の音色です。毎年、天祖神社の例大祭で演じられる地元の伝統芸能**田柄囃子**が平成15年2月に練馬区登録無形民俗文化財に指定されました。そこで、田柄囃子保存会の会長である橋本佳平さんにお話を伺いました。

「田柄囃子は神田流大間(おおま)囀(さえず)りツは江戸祭囃子からきています。大間とは一番遅いテンポのこと。江戸の祭囃子は笛1、大太鼓1、締(しめ)太鼓2、鉦(かね)1の五人囃子が基本です」と教えていただきました。「曲目の順に演奏していき、これに余興として、もどき（ひょっとこ）と大黒の舞が入ります。以前は獅子舞もありましたが、今は舞い手がいないのでお囃子だけですね」。

▲地区祭で演じている田柄囃子保存会の皆さん。前列左より大太鼓の橋本政博さん、締太鼓の橋本静さんと内田政夫さん、後列左より笠の橋本進さん、笛の橋本佳平さん

太鼓を購入して愛宕神社の氏子11名が田柄囃子連を設立したのが始まりだそうです。8年前に田柄囃子保存会と名称も改め、天祖神社の例大祭や地区祭、敬老会、区民館のイベント出演などで活動されています。

19歳から始められ、お囃子歴55年の橋本さんは、現在12名のメンバーの師匠でもあるとか。

▲祭りばんてん姿で獅子頭を手にする田柄囃子保存会会長の橋本佳平さん

「お囃子には楽譜がないからすべて口伝ですよ。『ぴーひゃらひゃら、てんてんてん、どんどこどん』など地言(じごと)といわれる擬音をまる暗記しないといけないから、それは大変。上手い音が出るのに10年はかかります」と橋本さん。「昔は、娯楽といえば祭りぐらいしかなかったから、お囃子をやることは若者の唯一の娯楽だったし誇りでしたよ。芸事は大変だけど、とにかく祭りが大好きだったから続けられたのでしょうね」と話されていました。

最後に、後継者のことを伺うと「それが難しいんですよ。若い方は仕事があるのでなかなか出て来れないし、時間もかかるからね」と話されていました。貴重な郷土芸能として次代へ伝承していくためにも、是非橋本さんをはじめとする保存会の皆さんには頑張り続けて欲しいものです。

▲もどき(左・中)と大黒(右)の面

創業一三〇年のどら焼きの老舗

駅前にもどり、川越街道から旧川越街道へ。創業明治八年の看板が目を引く**いま坂どら焼き神馬屋**❸に寄ってみました。この「いま坂」の名の由来、坂の名前かと思っていたら「この辺りは坂が多く『いまの坂はきつかった』と言いながら旅人が茶店で一休みした場所だったことからきています」とご主人の松原孝治さん。また、店名の神馬屋は、寺子屋を営んでいた本家が絵馬も描いていたことから、分家して和菓子屋を創業する時に屋号を神馬屋にしたといいます。

当初は大福のような「いま坂餅」だけでしたが、二、三代目の頃にどら焼きに餅を入れた餅入りどら焼きを始め、どら焼き専門になったのは5代目であるご主人から。「昔は和菓子といえば高齢の方が多く、若い人にも是非食べて欲しいと思って作りました」というご主人の言葉通り、小倉あんをはじめ栗入りや抹茶あん、コーヒーあんなど季節限定を含め現在19種類のどら焼きがあり、幅広い年齢の方に好評だそうです。

▲神馬屋のご主人松原孝治さんと奥様の弘子さん

▲老舗らしい落ち着いた店構え

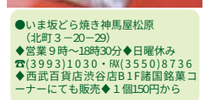
◀どら焼きの鉄板

絵馬と明治時代の営業鑑札▲

どら焼き作りの一番のこだわりは餡。上質の鬼双目糖と北海道十勝産小豆を煮込み蜜漬けする秘伝の手づくり餡です。人気のいちごあんどら焼きもジャムでなく白餡にすりつぶしたイチゴを加えています。「どら焼きは焼きたてが美味しいんですよ。お客様には焼きたてを食べて欲しいから毎日2回焼きます。売切れたらその日の営業はおしまいです。ご主人のこだわりはお客様への心配りにもあらわれています。

また、神馬屋では都内はもちろん新潟や大阪など全国の小、中学校の生徒さんの職場体験学習の受け入れをしているそうです。子供たちは皆熱心で中には将来有望な子もいるとか。「洋菓子嗜好の多い若い人たちに少しでも和菓子のおいしさを知って欲しいと思い引き受けました」とご主人。

伝統の味を守りつつ作られる様々な新しい創作どら焼きは、これからも地元だけでなく広く愛され続けていくことでしょう。


●いま坂どら焼き神馬屋松原（北町３－20－29）
◆営業９時～18時30分◆日曜休み
☎(3993)1030・FAX(3550)8736
◆西武百貨店渋谷店B1F諸国銘菓コーナーにても販売◆１個150円から

火災のゴールキーパーはあなたです

おもしろ風景館 Omosiro Fukeikan

井口石材店の巨大サッカーボール(石神井公園駅)

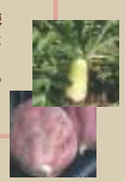
直径1.6m、重さ６ｔの巨石は、只今冬の火災予防デーのキャンペーンボールとして活躍中！

ようやく開いた踏み切りを急ぎ足で渡ると、行き交う車の向こうに巨大な灰色の球体が見えてきた。近づいてみると石製の巨大なサッカーボール。石材店の前に置かれたこの巨石、実はJリーグ立ち上げ記念に作られたイベント用のモニュメント。コンピューターを駆使して、巨大な石を回転させながら球体にしていったという大作は、地元でも評判を呼び、試合前に必勝祈願をしていくサッカー少年たちもいるらしい。また、石神井消防署の火災予防デーのキャンペーンにも一役買っているとか。火災予防とサッカー・ワールドカップ予選突破（フランス大会）を祈願して付けられた、火災のゴールキーパーはあなたです」の標語がユニークで心憎い。これから冬に向けて、是非「オーレ！火災予防」を。

●株式会社井口石材（石神井町４の４の６）

事業を終えて　―都市整備公社からのコメント―

今回の事業では、公社が専属で事務処理と工事の施工監理を行いました。工事中の連絡調整は事業全体を考慮しながら進めたので、全般的にみて順調に事業が行われたと思っています。おかげさまで、関係者のみなさんとともに事業を完成させることができました。

まちづくりは人と人とが協力し、「良い関係」を築くことで初めて出来ることを実感しました。最近は、住民の方の考え方も多様化していますので、これからはまちづくり事業も色々な視点から考える必要があるのではないでしょうか。

練馬区都市整備公社では皆様のまちづくりについての様々なご相談にお応えするため、「まちづくり相談室」を開設しています。お気軽にご活用下さい。